

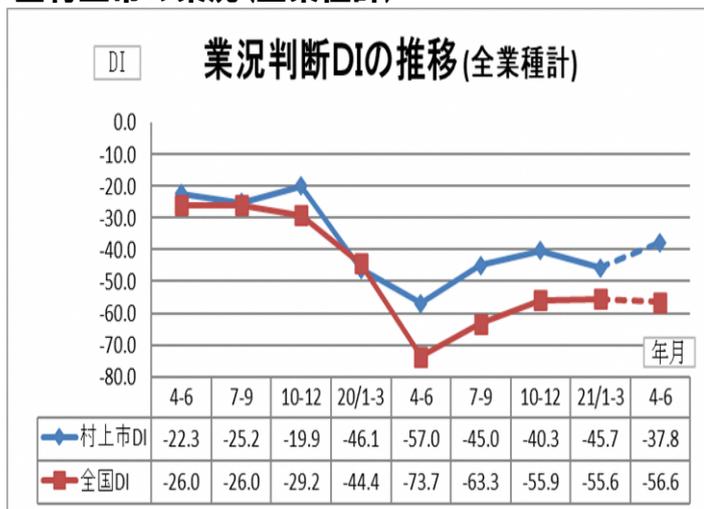


村上市 景況調査報告

〈令和3年1-3月期の実績・令和3年4-6月期の見通し〉

『新型コロナウイルス感染症の影響により依然として厳しい状況』

■村上市の業況(全業種計)

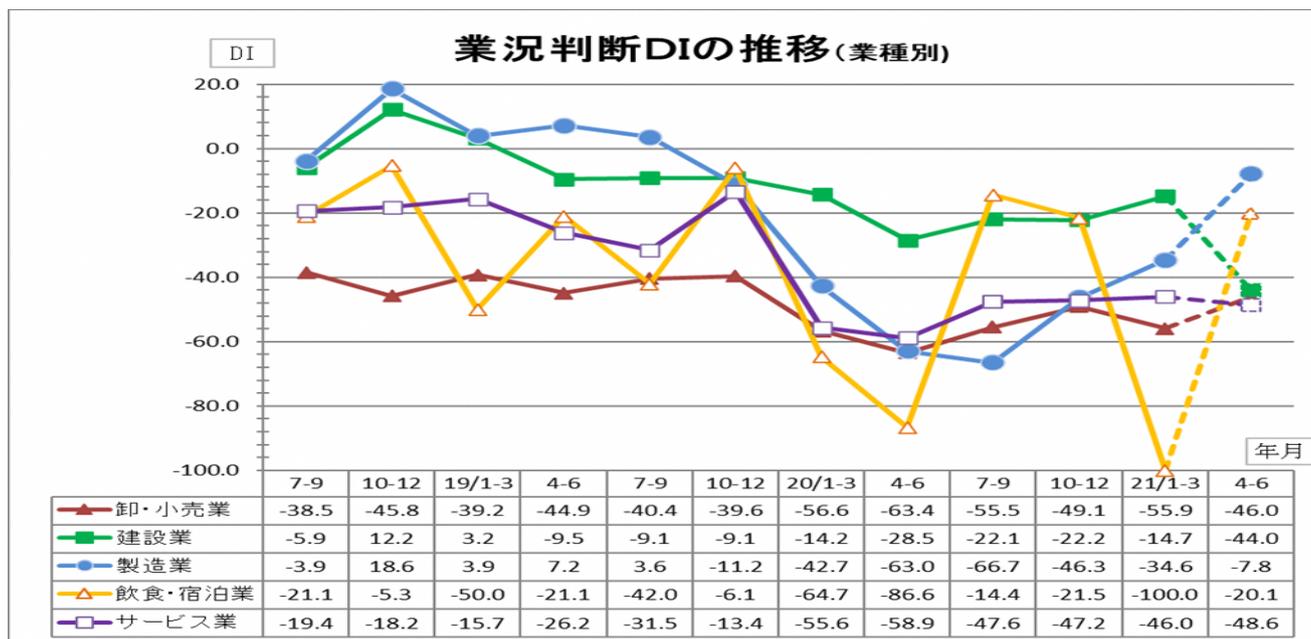


今期(1-3月期)の業況判断DI(全業種計)は、前期(10-12月期)と比べ5.4ポイント低下し▲45.7となった。前期における今期予測(▲68.4)より22.7ポイント上昇し前年同月比では0.4ポイント上昇した。全国DIは0.3ポイント上昇し▲55.6となった。

来期(4-6月期)については、7.9ポイント上昇し▲37.8となる見通し。全国DIは1.0ポイント低下し▲56.6となる見通し。

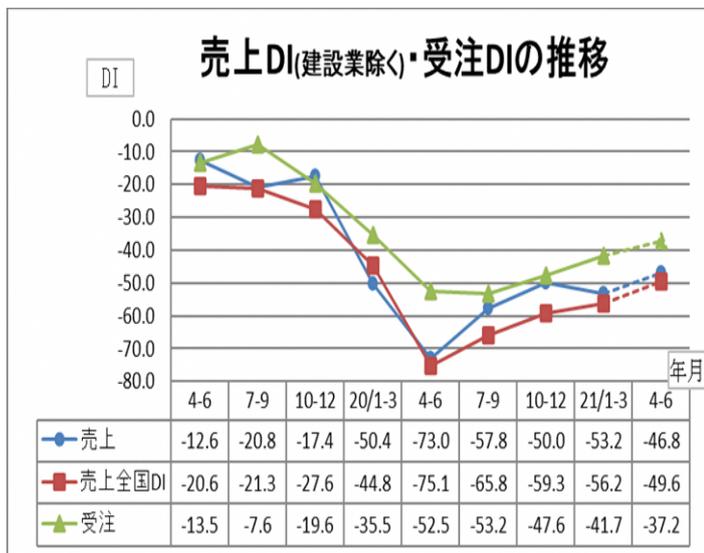
新型コロナウイルスの影響は引き続き大きく、業種別で見ると特に飲食・宿泊業で大きく低下し、2008年合併以来の調査後初めて▲100.0になった。

今後は、ワクチン接種が開始したことやGoTo事業の動向に引き続き期待が寄せられている。



■各業種の動向

卸・小売業	1月・2月は首都圏を中心とする緊急事態宣言の影響により、帰省客の減少やイベントの中止により過去にない売上減少となった。1月は降雪量も多かったのがさらに影響している。また冠婚葬祭は身内だけで行うなど人数制限を行っている関係で納品数が減少。反面、県や市の割引券等の効果があった(観光客向け店舗)との意見もある。見通しとしては、3回目の緊急事態宣言発令によりGWの来客は見込めない。	飲食・宿泊業	1月・2月は緊急事態宣言の発令やGo Toトラベルの停止、大雪などの影響で宿泊客の予約や新年会・送別会のキャンセルがあり売上が減少した。3月は天気も良く、人形さま巡りのイベントで来客が増えたお店もあった。見通しとしては、感染症の終息が見込めない現状の中、観光客増加に期待するコメントも多い。しかし、予約キャンセルが続き厳しい状況のため、行政による更なる経済的支援を強くお願いしたいとの意見もある。	
建設業	今年には除雪作業が多かったため売上が前年比増となったというコメントが多い中、年度末の入札で受注が前年より少なかったという声もある。コロナ感染者の発生による工事発注の遅延もあった。見通しとしては、受注量の減少に不安を抱えている企業が多い。	サービス業	旅客運送業では人の動きがない影響が大きい。自動車整備業では大雪による除雪作業が売上増となった事業所もあるが、死去・転居・免許返納等で管理台数が低迷している。その他、売上が落ちたが連動して経費も少なくなったというコメントもある。見通しとしては、サービス業全体でコロナ感染症が終息に向かわない限り良い方向に転じないというコメントが多い。	
製造業	建具製造業では工事が遅延している関係で納期が先延ばしになっている。酒類製造業では飲食店の売上減少に伴う売上減。一方、半導体製造業は上向いている。見通しとしては、住宅資材製造業ではコロナ禍での住宅の買い控え、食品製造業では外食産業の時短による売上減少などが懸念。			



今期の売上DI(建設業除く)は、前期と比べ、3.2%低下し▲53.2となった。前期における今期予測(▲79.8)より26.6%上昇し前年同月比では2.8%低下した。全国DIは3.1%上昇し▲56.2となった。

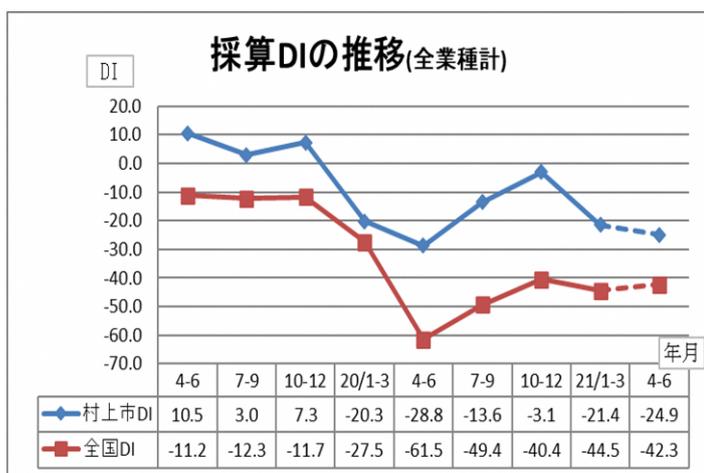
来期については、6.4%上昇し▲46.8となる見通し。全国DIは6.6%上昇し▲49.6となる見通し。

今期の受注DI(建設・製造業)は、前期と比べ、5.9%上昇し▲41.7となった。前期における今期予測(▲61.9)より20.2%上昇し前年同月比では6.2%低下した。

来期については、4.5%上昇し▲37.2となる見通し。

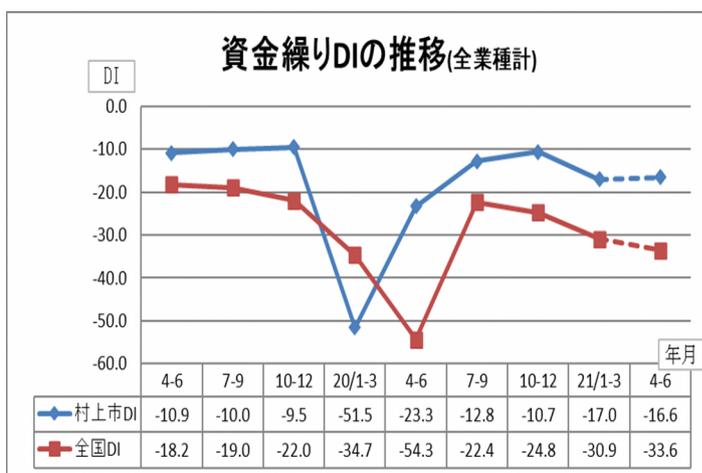
【受注DIの内訳】

	前期	今期	来期
・建設業	▲30.5	▲35.3	▲45.4
・製造業	▲70.4	▲50.0	▲27.0



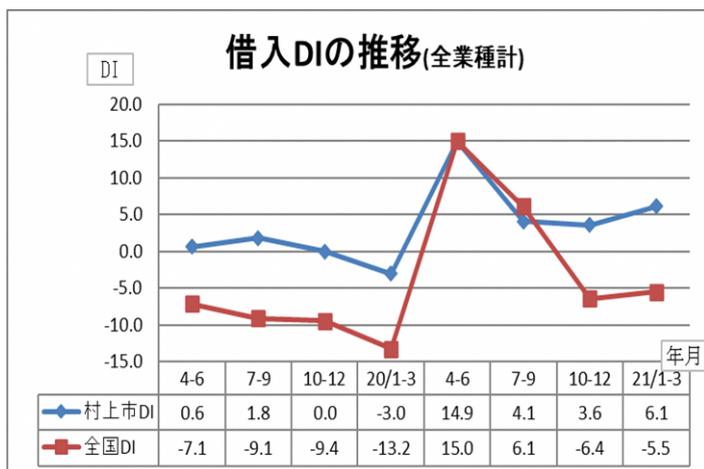
今期の採算DI(全業種計)は、前期と比べ、18.3%低下し▲21.4となった。前期における今期予測(▲35.5)より14.1%上昇し前年同月比では1.1%低下した。全国DIは4.1%低下し▲44.5となった。

来期については、3.5%低下し▲24.9となる見通し。全国DIは2.2%上昇し▲42.3となる見通し。



今期の資金繰りDI(全業種計)は、前期と比べ、6.3%低下し▲17.0となった。前期における今期予測(▲36.3)より19.3%上昇し前年同月比では34.5%上昇した。全国DIは6.1%低下し▲30.9となった。

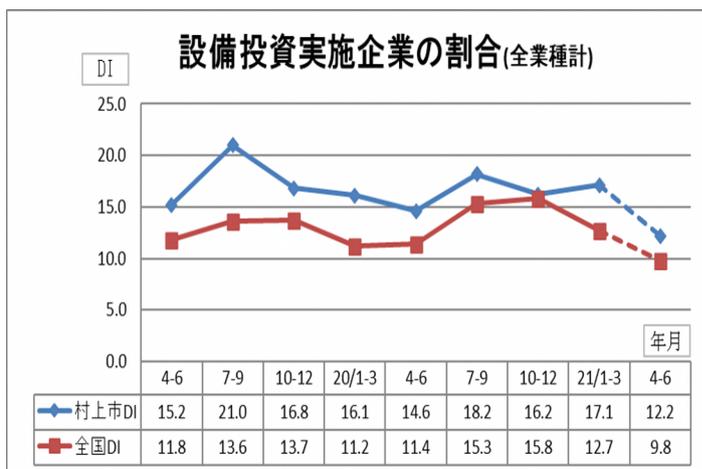
来期については、0.4%上昇し▲16.6となる見通し。全国DIは2.7%低下し▲33.6となる見通し。



今期の借入DI(全業種計)は、前期と比べ、2.5%上昇し6.1となった。全国DIは0.9%上昇し▲5.5となった。

【借入DIの内訳】

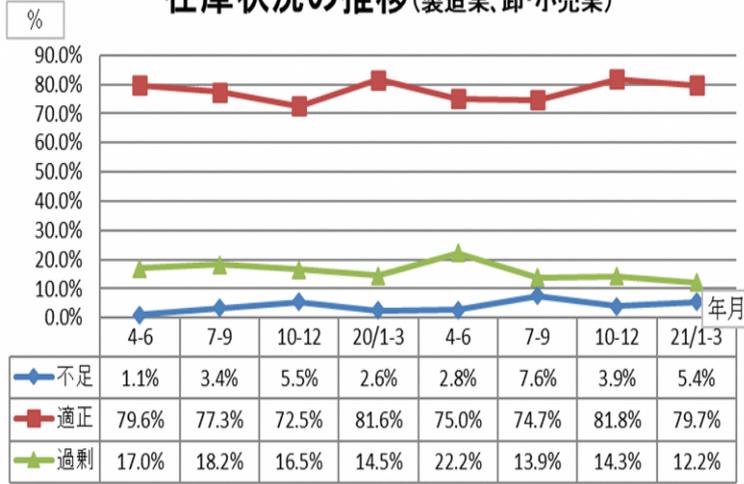
	前期	今期
・容易になった	4.8%	→ 6.7%
・変わらない	35.7%	→ 35.2%
・難しくなった	1.2%	→ 0.6%



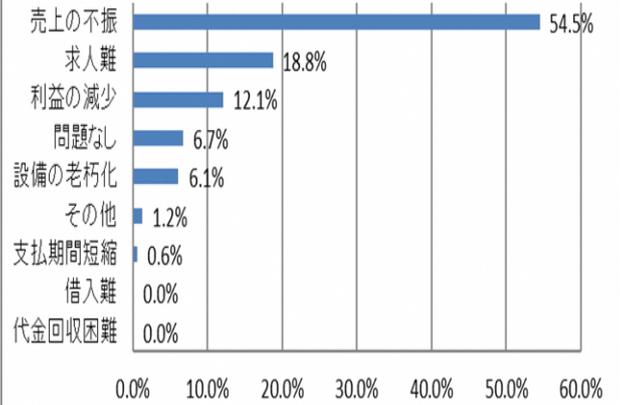
今期の設備投資実施企業の割合(全業種計)は、前期と比べ、0.9%上昇し17.1となった。前期における今期予測(7.8)より9.3%上昇し前年同月比では1.0%上昇した。全国DIは3.1%低下し12.7となった。

来期については、4.9%低下し12.2となる見通し。全国DIは2.9%低下し9.8となる見通し。

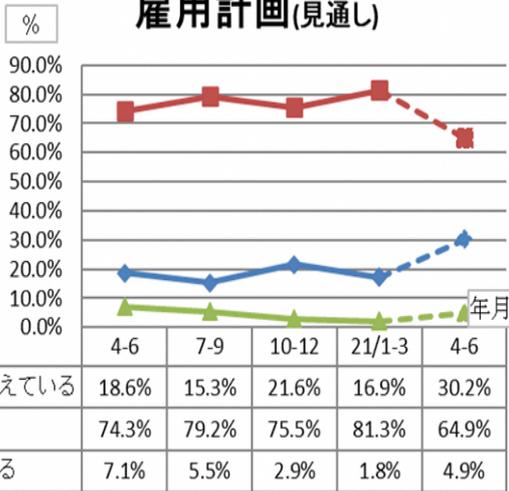
在庫状況の推移(製造業、卸・小売業)



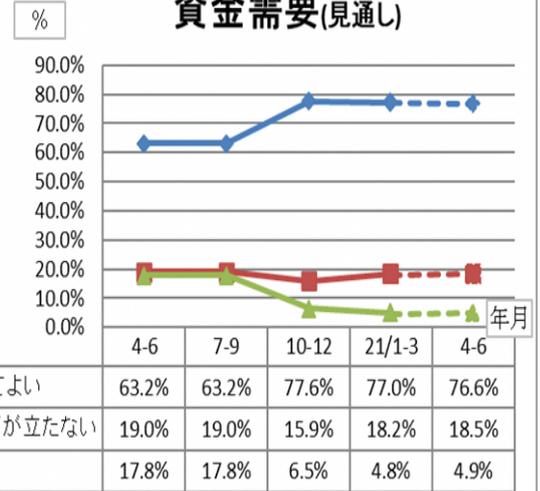
経営上の問題点



雇用計画(見通し)

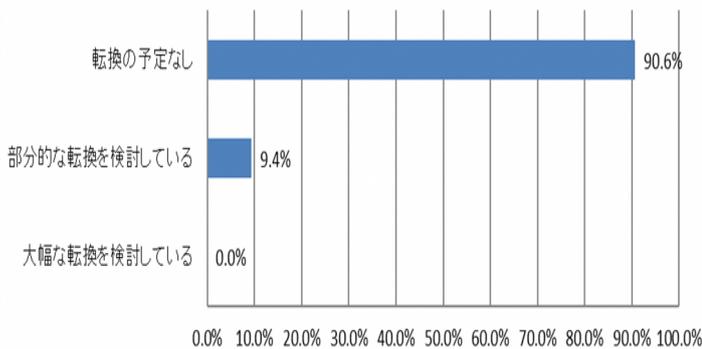


資金需要(見通し)



■ポストコロナ・ウィズコロナ時代の経済社会に対応するため、国では新たに事業再構築を支援する「事業再構築補助金」を3月より公募開始予定(※調査時の質問内容です。)ですが、業種・業態の転換についてのお考えをお聞かせください。

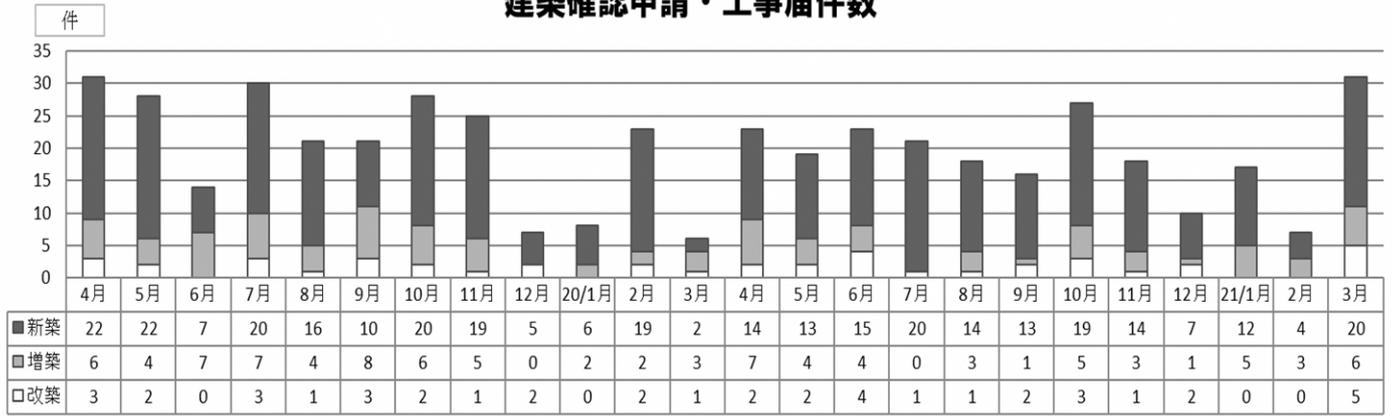
事業転換について



【業種・業態の転換について検討している具体例】

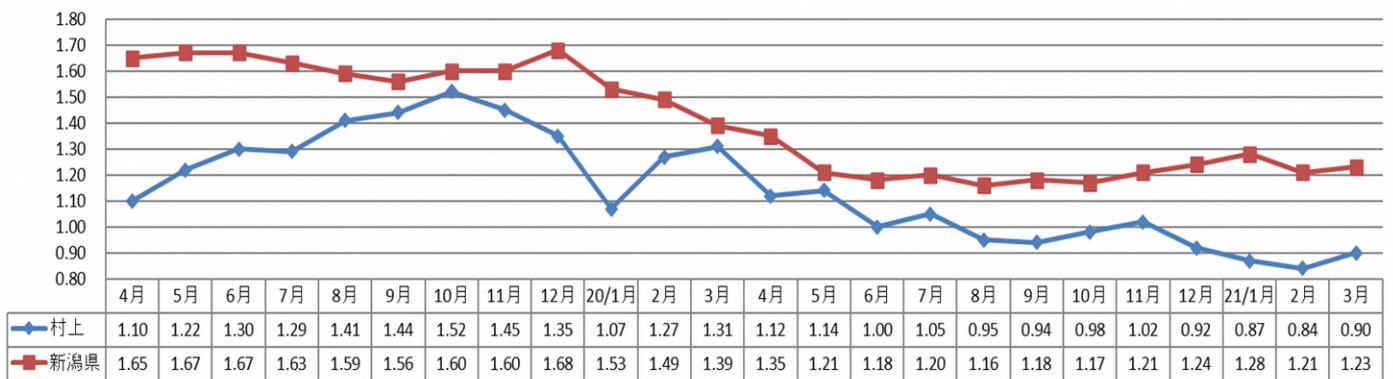
卸売・小売業	ネット販売の強化 テイクアウトの導入
建設業	ネットによる特産品等の販売
製造業	生産設備の入替を検討中 IT化・オンラインの導入等
飲食店・宿泊業	既存事業の横展開を模索中
サービス業	テイクアウト専門店舗の建設 同じ業種内で再利用できる物を再構築する

建築確認申請・工事届件数



※本データは、新築・増築・改築の申請があった建築確認申請(民間受付含む)と工事届の合算となります。

村上職安管内 有効求人倍率(パートを含む全数)



※上記有効求人倍率は、季節調整値再計算により改訂した数値を記載しています。

村上市・岩船郡内 金融機関預貸状況



調査概要

調査時期	2021年3月中旬～2021年4月上旬
調査対象	村上市内事業所200社 有効回答数:166社(回収率83.0%) [業種] 卸売・小売業62社、建設業41社、製造業30社、飲食・宿泊業21社、サービス業46社 [地区] 村上地区104社、荒川地区33社、神林地区21社、朝日地区19社、山北地区23社
実施機関	村上市地域経済振興課、村上商工会議所、荒川商工会、神林商工会、朝日商工会、山北商工会
分析機関	村上商工会議所
参考資料	全国中小企業動向調査結果(小企業編)／日本政策金融公庫 (全国DI) <2021.1-3実績・2021.4-6見通し>

DI値(景況判断指数)=[増加・好転などの回答割合]-[減少・悪化などの回答割合]

(※売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり意味する)